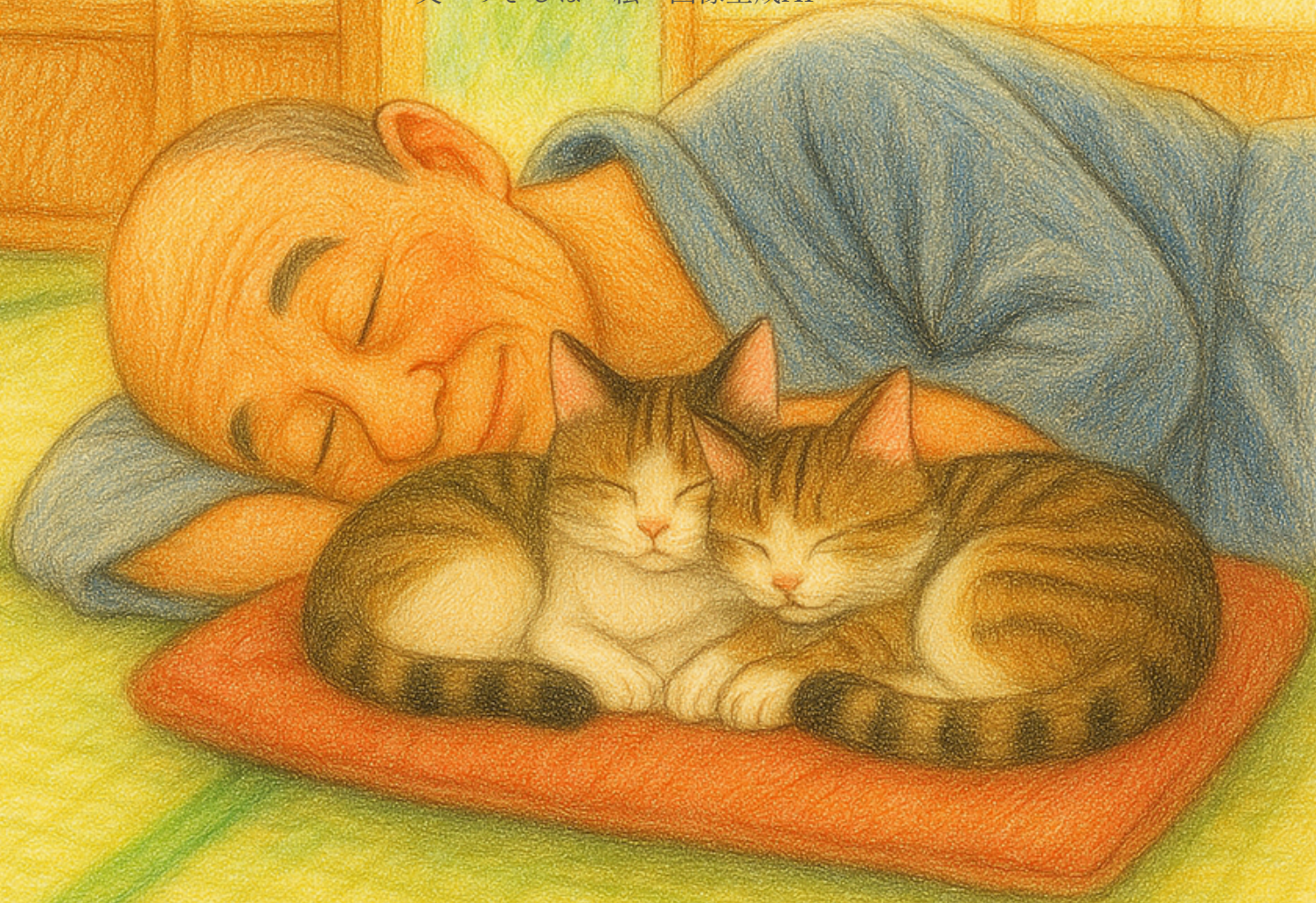


# ひだまりのまほう

文：みきしほ 絵：画像生成AI



Dear 五十田 三洞 先生

先生の63歳のお誕生日を  
心からお祝いして

感謝を込めて、この絵本を贈ります。

# ひだまりのまほう

作：みきしほ 絵：画像生成AI

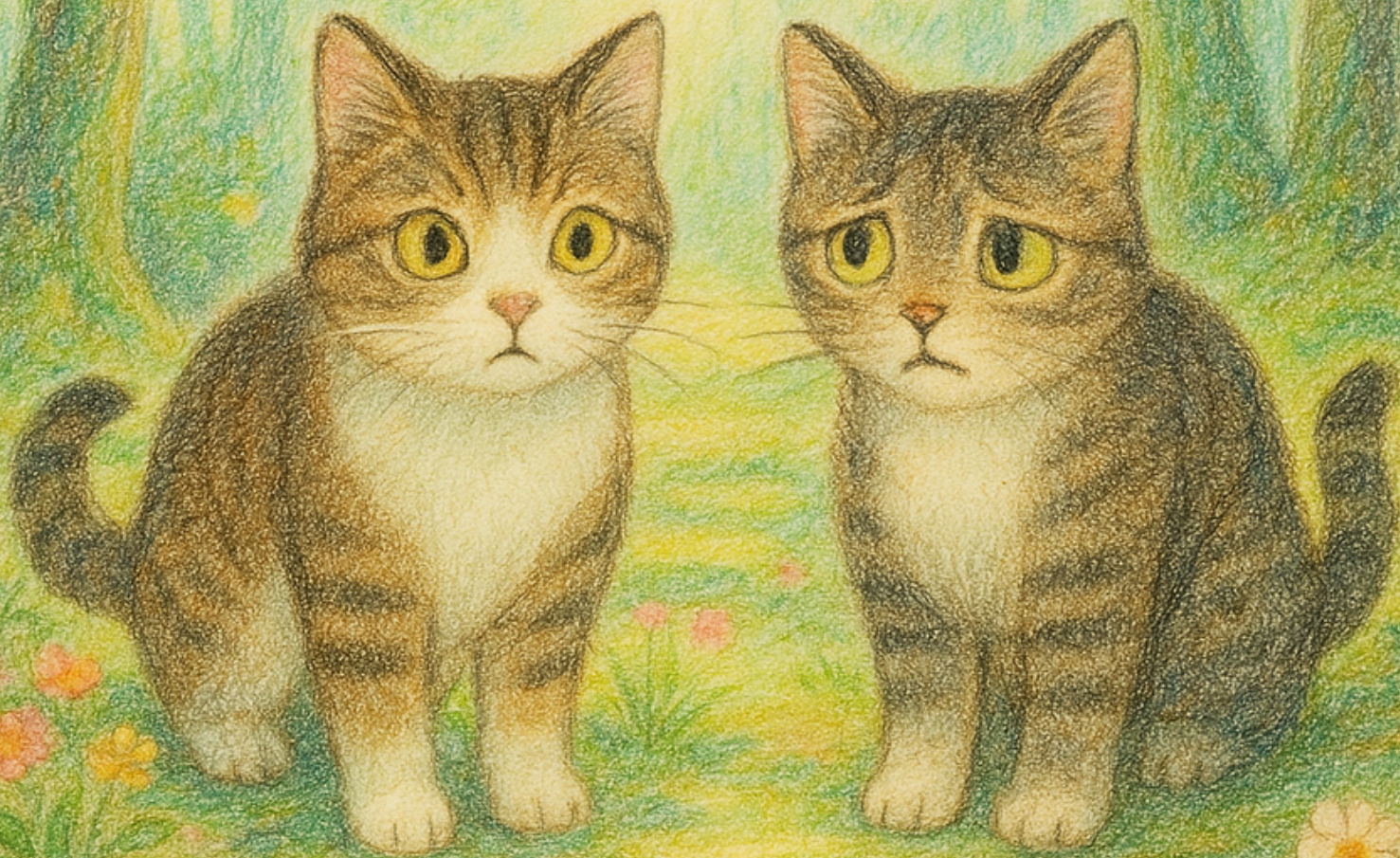
チュチュとテテ、三洞先生がお昼寝。

気づくとふたりは、  
不思議な森の中にいた。



「ここどこにやの？」とテテ。  
「いつもの窓辺じゃないわ」とチュチュ。

でもなぜか、あたたかくて懐かしい。



木の葉がしゃべり、空はピンク色。

そこは三洞先生の夢の中の世界だった。



「先生の夢の中に来ちゃったの？」

ふたりは顔を見合わせ、しっぽをピンと立てた。



森の奥から、ふくろうが飛んできた。

「おぬしたちが、この夢を救うんじや」





「この森が消えそうなんじゃ。

先生の心が、すこし寂しくなってるようじゃ」

ふくろうは、静かに言った。





「私たちが助けるの？」チュチュが顔をそむけながら聞いた。

「うん、先生のためにやるにゃ！」とテテ。



森の中心で、大きな木が泣きながらささやいた。

「先生の心を温かい思いでいっぱいにしてあげて」と。



木の根元には、ブランケットがあった。

それは、先生がよく昼寝に使う毛布だった。



「ここ、先生と私たちが出会った場所に似てるわ」

チュチュの声が、少しふるえた。



テテが毛布に顔をうずめた。

「わたしたちが大好きなせんせいの匂いがするよ…」

ふたりが毛布のうえで寄り添うと、木は光り出し、  
森じゅうがあたたかく包まれた。

夢の世界に色が戻る。





「君たちの絆が、先生の心を照らしたのじゃ」  
ふくろうが微笑み、羽を広げた。



An elderly man with a balding head and a warm, smiling expression is sitting on a tatami floor. He is wearing a blue traditional Japanese robe (yukata). He is petting two small, brown and white tabby cats that are curled up and sleeping peacefully on two red rectangular cushions. The background shows a window with a wooden frame, through which a bright, green outdoor scene is visible. The overall atmosphere is peaceful and affectionate.

ふと目が覚めると、いつもの部屋。

先生がそっとふたりの背中をなでた。  
「ありがとう…大切な夢を見たよ」

# ひだまりのまほう

---

2025年03月31日 初版第1刷発行

文 みきしほ

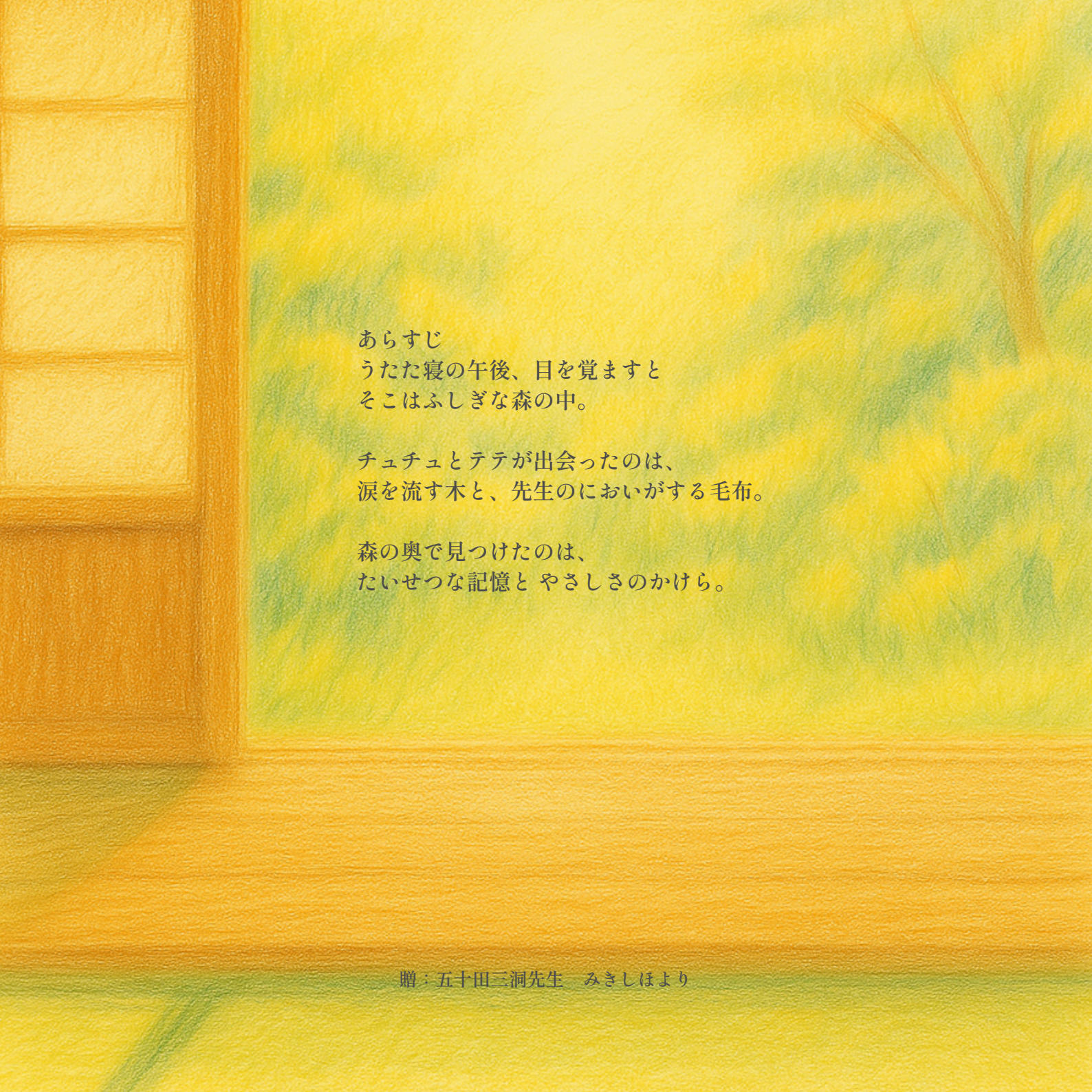
絵 画像生成AI

発行 みきしほデザイン

印刷・製本 プリントパック

本書は、五十田三洞先生の  
63歳のお誕生日を記念して制作しました。





あらすじ

うたた寝の午後、目を覚ますと  
そこはふしぎな森の中。

チュチュとテテが出会ったのは、  
涙を流す木と、先生のおいがする毛布。

森の奥で見つけたのは、  
たいせつな記憶と やさしさのかけら。

贈：五十田三洞先生 みきしほより